

第3回 東旭川まちづくり推進協議会議事録

日 時： 令和6年10月15日（火）午後6時30分から午後8時10分まで

場 所： 東旭川公民館 講堂

出席者： 磯石会長 西山副会長 五十嵐委員 池本委員 石川委員 踊場委員 亀上委員
小西委員 佐藤（翔）委員 佐藤（昌）委員 曾根委員 谷川委員 玉井委員
中村委員 二階堂委員 以上はまち協委員15名

オブザーバー： 社会福祉協議会：菊池氏 児童センター：青塚氏 高村氏
社会教育課：小島主幹 伊藤主任

事務局： 鈴木補佐（旭川市東部まちづくりセンター所長），岡本副支所長，井口主査
長野主任，河野主任，植松主任

傍聴者：1名

1 開 会

2 会長挨拶 東旭川まちづくり推進協議会 会長 磯石浩二

3 報告【地域まちづくり推進協議会の在り方について】

鈴木補佐からまち協の設置の経緯・役割や歴史，市と地域が認識している課題の説明があり，令和4年度に実施した「委員向けアンケート」及び令和5年度に実施した「委員との意見交換」の結果報告がされ，その結果を踏まえ，まち協の今後の進め方について報告があった。（質疑応答）

Q：まち協として地域課題の解決に向けて，話し合い，事業を行っているが，地域での負担も大きく，本来，市が行政として行わなければならないこともあると思う。まち協で話し合った課題や市に対する要望を市が把握できる体制ができているのか。

A：まち協で話し合われた要望については，まちづくり推進プログラムの中で市への要望という形で記載されているとおり，事務局を通じて担当部署にフィードバックされている。

Q：今後，地域が自主的に運営する組織に移行していくことも考えにあるようだが，そうなった場合，地域で円滑に組織運営，事業実施できるだけの予算を付けるなどの考えは市にあるのか。

A：市の中でも様々な事業などがある中で今後まちづくり事業補助金の予算を増やすことができるかどうか，断言することはできない。参考として，地域で民間企業の取組などに参加し，自分たちで財源を確保している地域もある。

4 議題

(1) 各部会における今年度事業の取組について

ア 地域グルメ部会

部会長の西山委員から次のとおり説明があった。

- ・8月11日（日）に実施された「東旭川まるっとマルシェ」について，前日・当日の運営に協力への御礼
- ・「東旭川まるっとマルシェ」を実施した結果，1300人ほどの来場者でにぎわいを見せ，成功を収めたことが報告された。

（質疑応答）

Q：イベントの出店者や来場者からどのような声があったかなどの報告はあるのか。

A：来場者アンケート及び出店者アンケートを実施している。来場者アンケートでは回答者

数が少なく、有効な結果を得ることはできなかったが、出店者アンケートでは21出店者中、15出店者から回答があり、約6割の出店者が満足した、次回も参加したい・予定が合えば参加したいという回答があり、開催時期は夏・秋が8割を占めるという結果が出たため、今後の取り組みの参考にする。

Q：イベントの中で大判カルタがあったが、老朽化したカルタを新しく作成する依頼が旭川中学校の美術部にあったが、作成期間が短かったため、今回は作成できなかった。十分な作成期間を取ってもらえると対応できるようになる。

A：来年に向けて検討していく。御協力に感謝する。

Q：実際にイベントに出店者として参加した委員にも話を聞いてみたい。

A：出店者として自分も東旭川地域で様々な飲食店などにも声をかけて、商品を置かせてもらうこともでき、東旭川を知ってもらえたのは良かった。飲食店以外の店や吹奏楽の演奏、イベントのゲーム企画なども充実すれば、もっと盛り上がると思う。

イ 高齢者・交通部会

各事業を担当する委員から次のとおり説明があった。

- ・住民主体の見守り・支え合い座談会in日の出倉沼地区

9月27日（金）に座談会を実施し、困っている人に対して個々の支援者が継続して対応していくとともに、支援者の活動を地域で発信し、新たな支援者を増やしていくこととなり、事業としては今年度で終了する予定。

- ・住民主体の支え合い（移動支援）座談会in旭正地区

移動サービスは今年度4月から9月までに12回実施しており、1回当たり4、5人は利用している。今後は買い物に出かけるのが難しく、サービスも利用できず困っている人がいることが考えられるため、そういう人への支援をどのようにするか検討する。

- ・住民みんなで行いたいこと・できたらいいなと思うことについて意見交換会

東部老人福祉センター（中央地区）にて、介護予防（栄養・認知症など）の取り組み
9月13日（金）に東部老人福祉センター（中央地区）でなんでも懇談会を実施し、認知症に関わる映画を鑑賞し、認知症への理解・関わり方について参加者に学んでもらうことができた。また、座談会では、できたらいいなと思うことについて参加者から多くの意見を得ることができた。地域性で違いがあることから地区ごとにも実施する予定。次回は10月29日（火）に実施する予定。

- ・地域検討部会「空き家について」

米原瑞穂地区で空き家が増えている状況にあるため、市の担当部署の職員を含めて同地区の住民と会議を8月2日（金）に実施し、市で対応できることを確認した後、市民委員会で話し合い、空き家などに関して活動する「ペーパンの未来を育てる会」を発足した。今後、移住者に空き家を提供するなどの活動を考えている。

- ・地域検討部会「のりタク利用促進」

のりタクについて市の担当部署の職員を含めて地域住民との会議を8月27日（火）に実施し、運賃収入が少なく、補助金などで賄っている状況であるため、運賃収入を増やす必要があり、そのためにはのりタクの仕組みが分かりづらいことや運行経路が決まっていって融通が利かないという課題があることが話し合われた。

（質疑応答）

Q：空き家について、移住者や空き物件の情報発信する必要があると思うが、民間企業や専門的な人に相談することも1つの手段だと思う。

A：チラシやSNSでの発信を考えている。色々な意見を聞いて進めていきたいと考える。

Q：空き家に関しては、農地法による制約という問題があるため、地域などでまとまって動

いた方が良いと思う。

A：地区同士協力して進めていきたい。

ウ あさひやまプライド部会

部会長の踊場委員から次のとおり説明があった。

- ・出張児童館の取り組みについて、大きなイベントとして5月12日（日）に春の室内遊びを実施し、10月27日（日）におばけやしき、2月16日（日）に冬の室内遊びを行う予定。そのほか、放課後マチデコキッズという取り組みを毎月第2、第4木曜日に実施。児童館は大きな役割になっていることから今後も継続していく予定。
- ・9月7日（土）に旭川小学校で秋のジョイントコンサートを実施し、約400人が来場し、地域の方にコンサートを楽しんでもらえた。
- ・今後、10月21日（月）に工業団地の工場見学、また魅力発見マップの作成、パラスポーツ体験などの実施を予定。
- ・その他

玉井委員から旭川中学校吹奏楽部が東日本吹奏楽大会で金賞を受賞したことや総合的な学習で東旭川地域の動画を作製していること、美術部で作製した絵画の展示、野球部による除雪ボランティアの実施を予定しているなどの報告があり、地域でも子どもたちに声を掛けてほしいとの話があった。

エ 行政提案事業「逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト」

事務局から次のとおり説明があった。

- ・豊田、米原瑞穂地区を対象に8月31日（土）にびあふる岩山で防災訓練を実施した。
- ・今後、防災会議を実施し、今年度内に地区防災計画と防災マップを作成する。
二階堂委員及び中村委員から次のとおり補足説明があった。
- ・防災訓練は天候の影響もあり、一部規模を縮小して行われたが、概ね予定通り実施できた。高齢化が進む中で動けない人、逃げてこれない人をどのようにして助けていくか、今後の防災会議で検討していきたい。（二階堂委員）
- ・米原瑞穂地区では実際に自然災害が起こった過去もあるため、より具体的にどのように対応していくか防災会議で検討したい。

(2) その他（令和6年度の残りの事業について、令和7年度の事業について、その他）

事務局から次のとおり説明があった。

- ・令和6年度の残りの事業については、当初の計画どおり進めていく。
- ・令和7年度の事業については、継続していきたい事業や新規事業など、委員から様々な意見をもらいたい。

Q：令和7年度の事業については、令和6年度中に事業計画や予算を考え、年度初めからすぐに活動できるようにした方が良い。

令和7年度の事業を考える上で、地域の人にアンケートを実施するなど、情報を集めておくことでスムーズに検討することができると考える。

A：会長と事務局で相談し、文書などで委員に対して令和7年度事業やまち協に対する意見などを把握するような方法で進めたい。

5 閉 会